

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
英語学 English Linguistics		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	特になし	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
谷村 航	なし	なし		授業中に指示します
授業の概要				
英語学習の最終目標は「英語を使いこなすこと」であるのは確かなことである。最近では「コミュニケーションのための英語」として会話が重視される傾向がある。「会話」とは、自分の持っている情報や心情を相手に伝えることである。円滑なコミュニケーションを行うためには「意味のある文」を作らなければならない。ある言語の母語話者なら誰でも意味の通る文を作ることができる。それは、意味の通る文を生成できる規則＝文法を身につけているからである。この講義では英語の歴史と、特に動詞に関わる文法現象を観察していく。				
授業の目標				
①これまで規範的に覚えてきた文法規則がなぜそのような規則となっているのか考えられることができるようにする。 ②動詞に関する文法現象、時制・相・法助動詞を理解することができるようにする。 ③英語の歴史に触れ、英語に煩雑で不規則なルールやパラダイム（語形変化表）が存在している理由を考察することができるようにする。				
授業の方法				
あらかじめ教科書の指定箇所を読んでまとめてもらい、それを学生に発表してもらい、その後疑問点・さらに考察が必要と思われる項目を学生全員でディスカッションし理解を深める。				
学習の成果（学習成果）				
①これまでややもすると丸暗記に頼っていた文法事項をなぜそのような振る舞いをするのか明示的に説明することができる。 ②上記①での目標を達成することで、人に教えることができる英語の文法に関する体系的な知識を身につけることができる。これが将来英語の教師になるうとする学生にとっての必要な知識となる。 ③英語の動詞に関する諸現象（時制・相・法助動詞）を学習することにより、英語の意味に関してより深い知識を獲得できる。 ④現代英語成立までの歴史を概観することで、現代英語の一見すると不思議に思われる現象の理由がわかるようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス：授業の仕方・進め方・発表者分担・英語学の各分野の概観			
第2回目	英語の歴史：内面史（社会的側面）（1）			
第3回目	英語の歴史：内面史（社会的側面）（2）			
第4回目	英語の歴史：外面史（言語の側面）（3）			
第5回目	英語の歴史：外面史（言語の側面）（4）			
第6回目	動詞の時制：現在時制と過去時制			

第7回目	動詞の時制：未来の表し方（1）		
第8回目	動詞の時制：未来の表し方（2）		
第9回目	動詞の時制：進行形と完了形（1）		
第10回目	動詞の時制：進行形と完了形（2）		
第11回目	助動詞：may, can, must		
第12回目	助動詞：shouldとwould		
第13回目	助動詞：ought toなど。		
第14回目	完了不定詞と助動詞の共起（助動詞＋have V-en）		
第15回目	レポート作成と解説。		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		30%	②授業：発表原稿を過不足なくまとめ、聞き手にわかりやすく発表する。また聞き手は積極的に発言や質問をする。
レポート		50%	授業で学んだことを体系的にまとめ、さらにそれに基づいて自分の考えを含め説得力ある主張を行っている。
調査報告書			
小テスト			
試験			
発表内容（態度含む）		20%	教科書の指定箇所を過不足なくまとめ、さらに自分の主張を付け加えて、聞き手の理解を深める示唆的な内容になっている。
その他			
教科書と参考図書			
『英文法解説』（金子書房）			
履修上の留意点・ルール			
積極的に授業に参加することが望まれる。また授業で理解できないことやその他不明な点は必ず質問すること。			